

研究拠点形成事業
平成25年度 実施報告書
B.アジア・アフリカ学術基盤形成型 (※)

(※ 該当しない交流形態を削除してください。)

1. 拠点機関

日本側拠点機関:	早稲田大学
(カンボジア) 拠点機関:	プノンペン王立芸術大学
(ベトナム) 拠点機関:	フエ大学
(ラオス) 拠点機関:	ラオス国立大学
(タイ) 拠点機関:	シラパコーン大学
(ミャンマー) 拠点機関:	マンダレー工科大学

2. 研究交流課題名

(和文): メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成

(交流分野: 文化財科学)

(英文): Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries

(交流分野: Heritage Science)

研究交流課題に係るホームページ: <http://mekong.lah-waseda.jp>

3. 採用期間

平成25年4月1日 ~ 平成28年3月31日

(1年度目)

4. 実施体制

日本側実施組織

拠点機関: 早稲田大学

実施組織代表者 (所属部局・職・氏名): 早稲田大学・総長・鎌田薫

コーディネーター (所属部局・職・氏名): 早稲田大学理工学術院・教授・中川武

協力機関: 東京大学、奈良文化財研究所、東京文化財研究所

事務組織: 早稲田大学国際部国際課

相手国側実施組織 (拠点機関名・協力機関名は、和英併記願います。)

(1) 国名: カンボジア

拠点機関: (英文) Royal University of Fine Art

(和文) プノンペン王立芸術大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture and Urbanism ・ Dean (Professor) ・ CHHING Chhommony

協力機関 : (英文) APSARA Authority (Authority for Protection and Management of Angkor and the Region of Siem Reap)

(和文) アプサラ機構

(英文) Norton University

(和文) ノートン大学

(英文) Ministry of Culture and Fine Arts

(和文) 文化芸術省

(2) 国名 : ベトナム

拠点機関 : (英文) Hue University

(和文) フエ大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Department of Architecture, Hue University of Science ・ Lecturer ・ NGUYEN Tu Nhu

協力機関 : (英文) Hue Monuments Conservation Center

(和文) フエ遺跡保存センター

(3) 国名 : ラオス

拠点機関 : (英文) National University of Laos

(和文) ラオス国立大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Architecture ・ Associate Professor ・ CHITHPANYA Soukanh

(4) 国名 : タイ

拠点機関 : (英文) Silpakorn University

(和文) シラパコーン大学

コーディネーター (所属部局・職・氏名) : (英文) Faculty of Archaeology ・ Associate Professor ・ SURAPOL Natapintu

協力機関 : (英文) Ubon Ratchathani University

(和文) ウボン・ラチャタニ大学

(英文) Ministry of Culture

(和文) 文化省

(5) 国名 : ミャンマー

拠点機関 : (英文) Mandalay Technological University

(和文) マンダレー工科大学

コーディネーター（所属部局・職・氏名）：（英文） Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)・Su Su

協力機関：（英文） Yangon University

（和文） ヤンゴン大学

5. 全期間を通じた研究交流目標

ユネスコ世界遺産には現在約 900 件のサイトが記載されている。185 ヶ国にのぼる条約締結国数からも、最も成功した世界条約の一つといわれ、登録を目指す動きは加熱の一方で、アジア・アフリカ等の途上国や新しい考え方による遺産の記載は増加が予想されている。記載実現のためには、その固有の価値とともに、顕著な普遍的価値の証明や保護体制の構築などが必要であり、また記載を目指す運動自体が、必然的に地球的広がりや人類史的な長期的視点からの遺産と地域の結びつきを見つめ直すきっかけとなる。記載後も遺産の保存活用のための人材育成が必要であり、多角的な国際協力体制の実現が求められている。環境・災害・食糧・資源・格差・紛争等の 21 世紀的世界の危機の深刻化の中で、遺産研究が地域や国の歴史文化の理解にとって不可欠であり、その保存・再生が疲弊した社会の復興の礎となり、人々の精神的一体性の源泉である公共空間回復に寄与すること、そして保護のための国際協調活動が、国際交流と平和構築に大きな役割を果たすことの期待がその背景にある。申請者らはこれまでにカンボジアやベトナムを中心として調査研究・保存・修復と、災害から地域や文化遺産を救済し、復興させることにより、高い評価を得た活動実績がある。これらの実績を基礎として、メコン川流域の諸国においてその地域的背景のもとに文化遺産の保存活用学を創成することを目標とする。同地域には、歴史・地理的背景を共有する多くの文化遺産保存事業サイト、そして将来的に世界遺産リスト申請の可能性があるサイトやそれと同等の歴史的価値を有するサイトと密接かつ多角的な協力のもとに連携した本拠点を中心に国際的な教育研究のネットワークを構築し、高度な専門性と豊かな構想力を持ち、文化遺産の保存を核とした参加・持続型社会の構築を担う人材の育成を行おうとするものである。

6. 平成 25 年度研究交流目標

本研究拠点形成事業が対象とする地域は、アジア・モンスーン地帯であり、近年発展がめざましいとはいえ、まだまだ発展途上国に位置づけられる。これらの国々は、ヨーロッパ的文化遺産の保存概念より、日本が長年培ってきた近代遺産のオーセンティシティ（真正性）を重視した上での、使いながら保存する考え方や技術が有効である。日本的な文化遺産保存活用学の蓄積を基礎として、多くの専門分野からなる複合領域を横断し、文化遺産を活用した社会発展に貢献し得る人材の育成を、平成 25 年度の研究交流を通しての共通目標としたい。具体的には、文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題に対する日本と各国拠点機関の二国間協力を基礎として、メコン川流域全体に共通して取り組むべき研究協力体制を同時に構築する。

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。

それを学術的に明らかにするとともに、特に保存と活用の関係について、共通する考え方や手法について議論する中で、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築に向けて、相互協力の方向を集約したい。

上記の研究交流に若手研究者の参加を積極的に推進し、調査現場やセミナー等での議論、さらにフォーラム誌の発行を企画、そこへの投稿を通して、彼らの育成をはかりたい。同時にセミナー及びフォーラム誌の発行を中核として、各国の固有性と地域の共通性の課題について、各々の社会に意識を高めることを今年度の目標とする。

7. 平成25年度研究交流成果

(交流を通じての相手国からの貢献及び相手国への貢献を含めてください。)

7-1 研究協力体制の構築状況

平成25年度は、本事業1年度目に当たる。このため、まず本事業の重要課題である「文化遺産の保存活用をめぐる各国の固有かつ主要な研究課題」に対して、今後、日本と各国の拠点及び協力機関の二国間協力を基礎として取り組んで行くための、基本的な研究協力体制の構築を行った。具体的には、まず、日本側コーディネーターと各国のコーディネーターとの間で、本事業の基本方針に関する事前協議及び確認を行った。その上で、相手国拠点機関及び協力機関と、本事業の主要課題に関連した各種調査研究活動を、日本側拠点機関である早稲田大学と連携の上、継続して続けることを確認した。また、日本で開催した国際ワークショップ・セミナーに、本事業に参加する各国の参加研究者の代表を招聘し、日本＝相手国の関係のみならず、相手国間の連携強化を図った。

以上のように、本年度は、次年度以降の各国の個別的事例に対する取り組みを実現するための調査研究活動の協力体制の基盤構築を図った。

7-2 学術面の成果

各国各地域とも、各々の文化遺産の保存および活用方法には伝統的、社会的特質がある。本事業では、3年間の活動を通してこの点を学術的に明らかにすることを目指している。特に、初年度は、今後2年間の学術活動の基盤となるための現況の整理と基礎的情報の収集を行い、それらを基にし、保存と活用の関係について共通する考え方や手法を中心に議論することで、メコン川流域に共通する文化遺産の保存活用学の構築への可能性を探った。具体的には、日本側コーディネーターと相手国側研究者と共同で、相手国主要遺跡の現況把握のための視察や相手国側の実績の確認を行い、日本側と相手国側で、文化遺産に関する基礎的情報の共有を行った。これらを基にして、日本で開催した国際ワークショップ・セミナーでは、日本側研究者及び相手国の参加研究者から、各国の文化遺産の直面する課題と今後の可能性に関する報告を行った。また、早稲田大学にて行っている既存の各種事業（カンボジアやベトナム）と情報共有等の学術的な連携を図った。

以上より、研究協力体制の基盤構築と併せて、次年度以降の現場セミナー開催実現へ向けた、各国の文化遺産の保存活用の現況の把握と、相手国側との学術情報の共有を積極的に行った。

7-3 若手研究者育成

若手研究者育成では、本事業に於ける共同研究の交流への参加を積極的に推進し、現場調査やセミナー等での議論、さらにセミナー・プロシーディングや本事業に関連する研究会誌の発行と、そこへの投稿を通して、彼らの育成を図ることを事業全体の目標としている。今年度において具体的には、ベトナムとカンボジアにおいては、既存の早稲田大学の他事業との連携を図り、より広く若手研究者の活動の場を提供できるよう、現地調査の派遣や現場での調査研究活動報告会等の開催に努めた。また、相手国側での現場共同研究を行い、それに関する調査研究発表を行った。加えて、平成25年度末に、日本で開催した国際ワークショップ・セミナーにおいて、各国の研究者らと日本側研究者との意見交換の場を広く設け、若手研究者間の積極的な相互交流と連携強化を図った。

以上のように、本事業と他事業との学術的な連携強化と併せて、若手研究者の育成においても、日本側と相手国側とで、相互の交流促進を効果的に行うことができた。

7-4 その他（社会貢献や独自の目的等）

セミナー・プロシーディング及び調査研究成果の報告集の発行を行うことで、各国の固有性と地域の共通性の課題について、日本側及び相手国側においても文化遺産の保存活用に対する意識を高めることを図った。また、本事業独自のウェブサイトを開設し、今後の事業展開のための各種情報を随時公開していくことを計画した。

7-5 今後の課題・問題点

平成25年度は、本事業の日本側拠点・早稲田大学にて、最初の国際ワークショップ・セミナーを開催した。このセミナーで、メコン川流域国の文化遺産が直面する共通の課題としての大きな枠組みを明らかにすることができた一方で、それぞれの国・地域が有する固有の価値や問題に対する検討がさらに必要であることが今後の課題として明らかとなった。そのために、次年度以降は、各国の文化遺産に焦点を当て、相手国側の文化遺産の現場セミナーを開催することにより、具体的かつ個別的事例を扱いながら、初年度において確認されたメコン川流域国における文化遺産の保存活用に関する共通の課題との比較を通して、相互の協力体制の強化と人材育成を行う予定である。

7-6 本研究交流事業により発表された論文

平成25年度論文総数 11本

相手国参加研究者との共著 5本

(※ 「本事業名が明記されているもの」を計上・記入してください。)

(※ 詳細は別紙「論文リスト」に記入してください。)

8. 平成25年度研究交流実績状況

8-1 共同研究

—研究課題ごとに作成してください。—

整理番号	R-1	研究開始年度	平成25年度	研究終了年度	平成27年度
研究課題名	(和文) メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成 (英文) Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries				
日本側代表者 氏名・所属・職	(和文) 中川武・早稲田大学理工学術院・教授 (英文) NAKAGAWA Takeshi・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Professor				
相手国側代表者 氏名・所属・職	(英文) (カンボジア) CHHING Chhommony・Faculty of Architecture and Urbanism, Royal University of Fine Art・Dean (ベトナム) NGUYEN Tu Nhu・Department of Architecture, Hue University of Science・Lecturer (ラオス) CHITHPANYA Soukanh・Faculty of Architecture, National University of Laos・Associate Professor (タイ) SURAPOL Natapintu・Faculty of Archaeology, Silpakorn University・Associate Professor (ミャンマー) Su Su, Department of Architecture, Mandalay Technological University・Head (Professor)				
参加者数	日本側参加者数	16名			
	(カンボジア)側参加者数	3名			
	(ベトナム)側参加者数	3名			
	(ラオス)側参加者数	1名			
	(タイ)側参加者数	3名			
	(ミャンマー)側参加者数	4名			
25年度の研究 交流活動	日本側コーディネーターが各国の中心的課題である文化遺産の現場を、当該国コーディネーターと共同で視察・調査し、各々の問題点を明らかにし、メコン川流域国の文化遺産の保存活用に関する共通の課題検討の準備を行った。 また、以上の成果を総合するための国際ワークショップ・セミナーを、平成26年3月に、東京・早稲田大学にて行った。				

<p>25年度の研究 交流活動から得 られた成果</p>	<p>「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成」の研究課題の各国個別の具体的な課題を明らかにし、本事業2年度目以降の共同研究及びセミナーのための基本的な協力体制の構築を相手国5カ国（カンボジア、ベトナム、ラオス、タイ、ミャンマー）と行った。</p> <p>事前の各国コーディネーターとの共同研究の成果を持ち寄り、日本において国際ワークショップ・セミナーを開催し、共通の課題の再確認とその解決のための協力体制の構築、さらに今後の指針の策定を行った。</p>
--------------------------------------	--

8-2 セミナー

—実施したセミナーごとに作成してください。—

整理番号	S-1
セミナー名	(和文) 日本学術振興会研究拠点形成事業「メコン川流域国における文化遺産の保存活用学の形成—その主要課題と今後の展望—」 (英文) JSPS Core-to-Core Program “Establishment of the Network for Safeguarding and Development of the Cultural Heritage in the Mekong Basin Countries - Key Themes and Future Prospects -“
開催期間	平成26年3月25日 ~ 平成26年3月29日 (5日間)
開催地(国名、都市名、会場名)	(和文) 日本、東京、早稲田大学・西早稲田キャンパス (英文) Japan, Tokyo, Waseda University, Nishi-Waseda Campus
日本側開催責任者 氏名・所属・職	(和文) 中川武・早稲田大学理工学術院・教授 (英文) NAKAGAWA Takeshi・Faculty of Science and Engineering, Waseda University・Professor
相手国側開催責任者 氏名・所属・職 (※日本以外での開催の場合)	(英文)

参加者数

日本 〈人/人日〉	A.	16/ 64
	B.	16
カンボジア 〈人/人日〉	A.	1/ 4
	B.	
ベトナム 〈人/人日〉	A.	1/ 2
	B.	
ラオス 〈人/人日〉	A.	1/ 3
	B.	
タイ 〈人/人日〉	A.	1/ 4
	B.	
ミャンマー 〈人/人日〉	A.	1/ 4
	B.	
合計 〈人/人日〉	A.	21/ 81
	B.	16

- A. 本事業参加者 (参加研究者リストの研究者等)
B. 一般参加者 (参加研究者リスト以外の研究者等)

<p>セミナー開催の目的</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・メコン川流域国における文化遺産の歴史的、社会的現状の確認。 ・その保存活用のための学術研究上の課題の現状。 ・当該国において文化遺産の保存活用の社会的位置付けと意義。 ・文化遺産保存活用学形成のための当該地域の連携上の可能性。 <p>以上の問題を、各参加者の発表を基に討議し、今後の解決のための協力のあり方を提案する。</p>																
<p>セミナーの成果</p>	<p>本セミナーでは、東京都内の文化遺産及び関連施設の視察を、招聘した相手国側の研究者らと行い、3月29日(土)に早稲田大学にて開催された国際ワークショップ・セミナーにて、各国の文化遺産の保存活用に於ける主要課題と今後の展望について講演及びディスカッションを行った。これらの活動を通して、以下の2つの項目が、本事業の成果として挙げられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・メコン川流域の各国における文化遺産の歴史的・基礎的学術研究上の現状と問題点が代表例を通じて明らかになった。 ・メコン川流域国に共通する文化遺産の保存活用に関連する学術上の課題が明らかになった。 <p>また、共通課題の解決のための協力体制の強化と方法の可能性の確認を行った。</p>																
<p>セミナーの運営組織</p>	<p>早稲田大学国際部、理工学総合研究所の事務的支援の基に、運営の実務は早稲田大学総合研究機構ユネスコ世界遺産研究所および理工学術院建築学科中川武研究室がその緊密な協力のもとに担当する。</p>																
<p>開催経費 分担内容 と金額</p>	<table border="1"> <tr> <td colspan="2" data-bbox="371 1473 571 1518">日本側</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1525 1042 1559">内容</td> <td data-bbox="1042 1525 1257 1559">金額</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1559 1042 1592">外国旅費</td> <td data-bbox="1042 1559 1257 1592">812,740 円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1592 1042 1626">謝金</td> <td data-bbox="1042 1592 1257 1626">111,000 円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1626 1042 1659">備品・消耗品購入費</td> <td data-bbox="1042 1626 1257 1659">236,276 円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1659 1042 1693">その他経費</td> <td data-bbox="1042 1659 1257 1693">277,572 円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1693 1042 1727">外国旅費・謝金等に係る消費税</td> <td data-bbox="1042 1693 1257 1727">46,187 円</td> </tr> <tr> <td data-bbox="579 1727 1042 1760" style="text-align: right;">合計</td> <td data-bbox="1042 1727 1257 1760">1,483,775 円</td> </tr> </table>	日本側		内容	金額	外国旅費	812,740 円	謝金	111,000 円	備品・消耗品購入費	236,276 円	その他経費	277,572 円	外国旅費・謝金等に係る消費税	46,187 円	合計	1,483,775 円
日本側																	
内容	金額																
外国旅費	812,740 円																
謝金	111,000 円																
備品・消耗品購入費	236,276 円																
その他経費	277,572 円																
外国旅費・謝金等に係る消費税	46,187 円																
合計	1,483,775 円																

8-3 研究者交流（共同研究、セミナー以外の交流）

平成 25 年度は実施していない。

9. 平成25年度研究交流実績総人数・人日数

9-1 相手国との交流実績

派遣先 派遣元	四半期	日本	カンボジア	ベトナム	ラオス	タイ	ミャンマー	合計
日本	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	(7/113)	(2/51)	1/2 ()	1/7 ()	()	2/9 (9/164)
	3	()	2/10 (1/8)	()	()	3/7 ()	()	5/17 (1/8)
	4	()	8/59 (2/12)	1/3 (2/40)	()	1/4 ()	1/8 ()	11/74 (4/52)
	計	()	10/69 (10/133)	1/3 (4/91)	1/2 (0/0)	5/18 (0/0)	1/8 (0/0)	18/100 (14/224)
カンボジア	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	1/6 ()	()	(1/3)	()	()	()	1/6 (1/3)
	計	1/6 (0/0)	()	0/0 (1/3)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	1/6 (1/3)
ベトナム	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	1/2 ()	()	()	()	()	()	1/2 (0/0)
	計	1/2 (0/0)	0/0 (0/0)	()	()	()	()	1/2 (0/0)
ラオス	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	1/3 ()	()	()	()	()	()	1/3 (0/0)
	計	1/3 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	()	()	()	1/3 (0/0)
タイ	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	1/6 ()	()	()	()	()	()	1/6 (0/0)
	計	1/6 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	()	()	1/6 (0/0)
ミャンマー	1	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	2	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	3	()	()	()	()	()	()	0/0 (0/0)
	4	1/6 ()	()	()	()	()	()	1/6 (0/0)
	計	1/6 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	()	1/6 (0/0)
合計	1	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)
	2	0/0 (0/0)	0/0 (7/113)	0/0 (2/51)	1/2 (0/0)	1/7 (0/0)	0/0 (0/0)	2/9 (9/164)
	3	0/0 (0/0)	2/10 (1/8)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	3/7 (0/0)	0/0 (0/0)	5/17 (1/8)
	4	5/23 (0/0)	8/59 (2/12)	1/3 (3/43)	0/0 (0/0)	1/4 (0/0)	1/8 (0/0)	16/97 (5/55)
	計	5/23 (0/0)	10/69 (10/133)	1/3 (5/94)	1/2 (0/0)	5/18 (0/0)	1/8 (0/0)	23/123 (15/227)

※各国別に、研究者交流・共同研究・セミナーにて交流した人数・人日数を記載してください。(なお、記入の仕方の詳細については「記入上の注意」を参考にしてください。)

※日本側予算によらない交流についても、カッコ書きで記入してください。(合計欄は()をのぞいた人数・人日数としてください。)

9-2 国内での交流実績

1	2	3	4	合計
0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (0/0)	0/0 (6/8)	0/0 (6/8)

10. 平成25年度経費使用総額

(単位 円)

	経費内訳	金額	備考
研究交流経費	国内旅費	212,600	
	外国旅費	4,653,717	
	謝金	379,000	
	備品・消耗品 購入費	300,808	
	その他の経費	1,003,875	
	外国旅費・謝 金等に係る消 費税	250,000	
	計	6,800,000	
業務委託手数料		680,000	
合 計		7,480,000	